

開校 150 周年



学 校 だ よ り

は え  
南 風 の 子

中種子町立  
南界小学校

令和5年7月7日



## 楽しく充実した夏休みに

校 長 芝 原 に ほ

75日間の1学期もあと二週間ほどで終わり、子供たちが楽しみにしている夏休みがやってきます。今、各学級では、学習のまとめや生活面の振り返りを行っています。子供たちは、それぞれに自分ができるようになったことやがんばったことを確認し、満足そうな様子です。終業式の日には、それらを記した通知表を持ち帰ります。各御家庭では、子供の伸びに目を向けて励ましの声かけをお願いします。

他校の話で恐縮なのですが、私は、以前、日置市立伊作田小学校に勤務していました。校区には、日本三大砂丘ともいわれる吹上浜の中の「江口浜」があり、サーフィンや海水浴で賑わうところです。この学校の正面玄関の左側に「木原訓導頌徳碑」が立っています。訓導というのは、戦前の教員の役職名で、今でいう教諭のことです。大正5年7月17日、終業式を終えた木原先生の学級の子供たちは、水泳が得意な先生に江口浜で泳ぎを教えてくれるようせがみ、出かけました。しかし、おそらく離岸流とみられる波に2人の子供がさらわれてしまいます。一人を助け出した木原先生でしたが、二人目にたどり着いたときにやってきた大波にさらわれ、二人は帰らぬ人となりました。このニュースを知った全国の人々から、悲しみに暮れる御家族や学校に義援金が届けられ、それをもとに、木原先生の勇気ある行動をたたえ、子供たちの大切な命を二度と海でなくすまいという強い思いをこめて頌徳碑が建てられたのです。伊作田小学校では今でも毎年7月の全校朝会ではこの話が語り継がれています。(R2.伊作田小学校だより8月号参照)

木原先生は鹿児島市谷山の出身で、谷山の歴史学習会の方々が伊作田小にお見えになったとき「前、谷山小に勤めていたんじゃないですか？」と声をかけられました。谷山小に勤務していた頃にお世話になった学校主事さんと学校応援団の方だったのです。木原先生のお導きと感激しました。そして、4月。南界小に着任して郷土史を見ていたとき「大正3・4年頃熊野に、谷山から移住してきた人々を中心に新町が生まれた」の一文とありました。年代的に、木原先生と繋がりのある方もいたかもしれません。縁を感じずにはられません。

南界校区では、多くの方の御協力のもと、夏休み期間中、水難事故防止巡回指導が実施されます。本当にありがたいことです。海端で育った子供だからこそ、海の恵みに感謝し、海に畏敬の念をもち、誰一人として海の事故に遭うことなく成長して欲しいと強く思います。

42日間の夏休み。地域の皆様には、地域の中でも子供を見守っていただき、気になることや危険を感じる場面等がありましたら、声をかけていただくと共に、学校にもお知らせいただくと幸いです。事故のない思い出深い夏休みになることを願っています。

